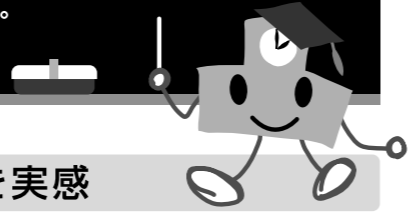


リサイクル堆肥を使って野菜を栽培。 食べ物を大事にし、給食を残さず食べるように。

札幌市のフードリサイクル実践校として、リサイクル堆肥を使った野菜栽培を実施。
食物を大切に給食の残量は少なくなり、野菜栽培が子供たちに与える影響は大きい。
フードリサイクルの他にも身近なものを活用し、環境への意識を育む。



内容 野菜栽培を行うことで より食物の大切さを実感

本校は昨年から札幌市のフードリサイクル実践校として取り組んでいる。栄養教諭がフードリサイクルについて子供たちに説明するとともに、総合的な学習の時間や理科、社会科の時間を利用し、教材園でリサイクル堆肥を使って野菜栽培を行っている。3年生はトウモロコシ、4年生と6年生はジャガイモ、5年生はイネとカボチャなどを栽培した。子供たちが育てた野菜は、家庭科や総合的な学習の時間の授業で調理して試食する。

またフードリサイクルの指定業者がリサイクル肥料を使って栽培した野菜が給食に使用されている。NPO法人による出前授業では、カボチャがリサイクル堆肥を使用した土を使って栽培される方法や「フードリサイクルの仕組み」を知るとともに、給食の献立のなかでポタージュや天ぷらとして取り入れられることを知った。本校の給食の残量はもともと少ない方で、子供たちは給食をととてもよく食べている。「もったいない」という気持ちが根付いているのが感じられる。

今後 身近なものを活用し 環境への意識を育む

栽培活動については、本校は畑が広いので大量の肥料が必要であり、その堆肥をまく作業を事務員の協力で行っている。今後は、さらに学校全体の協力が必要になると感じている。

フードリサイクルに関しては、給食の残食はリサイクル肥料へ利用し、パンが残ったら乾かしてニンジンの皮とともにうさぎのエサにするなど、実践的に行っている。このように、自分たちの身近で活用できる素材を使い、楽しみながら進めていくことが環境教育の継続・発展につながると考えている。

環境教育は一つ一つの事柄を大切に取組むことがポイントで、日々の生活をきちんとすることが、様々な

行動や実践力に繋がる。例えば画用紙の使い方一つにしても、無駄なく再利用しやすい使い方をするなど、日常の中で、自然に行える意識を育てていきたい。



ミニトマトとカボチャの収穫の様子

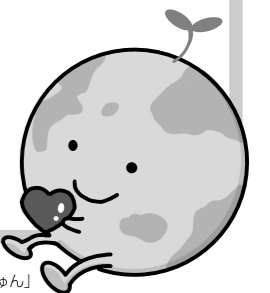
広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

この地域では小中学校が、ごみ拾いや清掃活動をしていることもあり、子供たちも自分の住む街に対する意識が高いと思います。地域の方も学校行事への参加意識がとても高く、協力を得られる機会が多いので、活動をスムーズに行うことができます。また、地域にある会社が子供たちが体験加工できる石(石山軟石)を提供してくれることもあります。

MEMO



未来の札幌を見つめる【環境】
イメージキャラクター「ちっせゅん」

ごみ分別・資源物回収

リサイクル可能なペットボトル・キャップの回収

フードリサイクル・農園

身近なリサイクル

清掃活動

植樹・花壇

ピオトープ

ソーラーパネル

委員会
児童会

地域と協働

その他